

入学式告辞

名古屋外国語大学を代表し、皆さんのご入学を心からお祝い申し上げます。皆さんの輝き溢れる表情を前にして、私自身、身が引き締まる思いです。

さて、今日から皆さんの新しい学び舎となる名古屋外国語大学は、創立から二十六年というまだ若い大学です。人生に喩えるならば、青春の真つ盛り。しかし、私たちの大学は、今はもう、中部地区をリードする勢いある大学へと成長し、今後は、次なるステップに向けてより一層、力強い助走を開始すべき時期に入ろうとしています。今後、この勢いを持続させつつ、さらにその存在感を日本全国に向かって発揮すべく努力を重ねているところです。今日のこの晴れやかな門出にあたって、私はこれから、皆さんの大学での学びの指針となるヒントをいくつか伝えたいと思います。

二十一世紀に入り、世界のグローバル化は留まるところを知らぬ勢いで進んでいます。科学技術もまた、二十年前には想像もできなかった勢いで新たな領域をめざして挑戦を続けています。私が、今、二十年前という例を持ち出したのは理由があります。二十年前、すなわち一九九五年とは、マイクロソフト社からウィンドウズ九五が発売されたIT革命の年、後に「インターネット元年」として広く知られる年です。そしてこの二十年間、私たちは、科学技術上のさまざまな事件を目撃してきました。再生医療技術の劇的な展開、ロボット工学、人工知能分野での驚くべき発展。そこで、私が目にしたいいくつかのトピックをここに紹介します。

一つはアメリカの新聞からの引用です。それによると、二〇一一年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの六十五%が、将来、現在、存在しない職業につくという予言です。

第二は、イギリス・オックスフォード大学のオズボーンという研究者が提示した予言です。すなわち、今後二十年のうち、現在の職業のうち、じつに六十七%がロボットや人工知能によって代用されることになるということです。

そして第三は、イギリスの有名な経済学者ケインズの予言で、何と二〇三〇年までに人間は週十五時間程度働けば済むようになるということです。

皆さんは、まさに、これからの人生において、これほどにも不確定性に満ちた将来を生きなければならぬのです。では、そうした未来においても、けつして意味を失うことのない学びとは、スキルとは何でしょうか。オズボーン博士は、こう言います。

「かつて洗濯は手作業で行っていたが、洗濯機の登場でその仕事は奪われた。しかし、それによつて余つた時間を使って新しい技術や知恵が創造された。こうして人類は発展してきたわけだ。現在起きているのも同じことである」

では、ロボットや人工知能によつては代替できない、真に人間的と呼びうる営みとは何でしょうか。これから、皆さんが、大学、そして大学院での学びのなかで常に意識し続けるべき問題がここにあります。博士はさらにこう続けます。

「ロボットやコンピュータは、むしろ、芸術などのクリエイティブな仕事には向いていない。となれば、人間は機械にできる仕事は機械に任せて、より高次元でクリエイティブなことに集中できるようになるわけだ。人間がそうして新しいスキルや知性を磨くようになれば、これまで以上に輝かしい『クリエイティブ・エコノミー』の時代を切り開いていける」

むしろ、博士は、未来を生きる人々すべてに芸術家になれ、と言っているではありません。そうではなく、クリエイティブなものこそが、人生の道を切り開く道となると主張しているのです。

「クリエイティブ・エコノミー」——、「創造的経済学」とでも翻訳するのでしょうか。私には何か、とても夢のある言葉のようにも思えます。つまり、人間のクリエイティブな力によつて、現実の世界の政治や経済が動いていくというような、そんなふうな夢です。

では、この時代を生きるために欠かせない力とは、具体的に何でしょうか。つまり、ロボットに負けない知力、精神力とは何かということです。今、私が用意できる答えは、きわめてベーシックな次の五つの力です。ベーシックであるからこそ、もつとも強い生きる力となりうるのです。

- 1 英語によるきめこまかなコミュニケーション力
- 2 英語以外のもう一つの外国語によるコミュニケーション力
- 3 日本を含めた世界の政治やアートについてしっかりと語れる教養力
- 4 現代の日本に生きる幸福をしっかりと自覚できる生命力
- 5 世界の人々に対する豊かな共感力

名古屋外国語大学の学びの本質は、まさにこの五つの力に凝縮されています。

さて、私たちのキャンパスは、日進の小高い丘の上に立っています。お隣では、私たちの姉妹校であるNUAS(名古屋学芸大学)の学生たちが学んでいます。今日から四年間、NUFS(名古屋外国語大学)のみならず、お隣のNUASの学生たちとも切磋琢磨し合いながら、充実した学生生活を送ってください。

そして最後に、記憶にとどめてほしいことが一つ。今日のこの日から、名古屋外国語大学は、皆さんにとつて人生の長い道連れとなるということ。皆さんのこれからの努力と将来における活躍によつて、私たちの大学NUFSそれ自体の輝きと未来もまた、日々、更新されるということ、私たち教職員一同も、そのことを胸に刻み、皆さんのよりよき学生生活のために全力を尽くす所存です。

以上をもつて、学長の告辞といたします。

二〇一五年四月一日